

令和4年度 美郷町立西郷義務教育学校（西郷幼稚園）「学校関係者評価書」

■ 学校経営ビジョン

○ 教育目標・校訓に基づき、義務教育学校の特色を活かした連続性のある多様な学びを実現することで、地域唯一の義務教育を担う学校として、地域の期待に応えるとともに、信頼される学校を創造する。

■ 教育目標

「ふるさとを愛し、未来を拓く子どもの育成」

■ 校訓

「活気」… 夢や希望の実現に向け、創意工夫し実現する子ども

「和気」… ふるさとを愛し、信頼し合い、協働する子ども

「根気」… 困難を乗り越え、粘り強く努力し続ける子ども

■ 教育理念

「連続性のある多様な学びの実現」

【前期ブロック（幼稚園～4年生）】

・ 基本的な生活習慣や基礎基本の定着を目指し、主に「教員主導型」の教育活動を行います。

【後期ブロック（5年生～9年生）】

・ 基礎基本の活用力育成を目指し、主に「子ども主体型」の教育活動を行います。



【目指す学校の姿】

「子どもたちが 自分たちの力で 自分たちの学校を 創っていく」学校
「大人たちが 自分たちの生き方（教育実践など）を 語る」学校

【教育活動のテーマ・キーワード】

「与えられる教育から、自らつかみ取る学びへの転換」
「対話」 「ねらい」

【重点実践事項】

① 連続性のある教育活動の実施	<p><常に目標とする9年生の姿をめざしながら教育活動を実施する。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した対話活動の実施 ・ 主体性のある生徒会活動の実施 ・ 課題解決を図る健康への探究活動の実施
② 子どもの成長に繋がる教育支援の充実	<p><支援体制の整備や学習評価の改善など、真に子どもの成長に繋がる支援を充実させる。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年担当制・教科担任制・ブロック主任制等による複数支援体制の充実 ・ 子どもの学習改善に繋がる学習評価の充実
③ 地域と連携した教育支援体制の構築	<p><教育目標等を共有し、一体となった子どもの教育を支援する体制を構築する。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会制度や地域人材をいかした教育支援体制の構築 ・ 連続性のある部活動体制の実施
④ 学校における働き方改革の更なる推進	<p><継続した取組と新たな取組により、目的に迫る更なる働き方改革を推進する。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級担当制・教科担任制・複数部顧問制等による業務の平準化 ・ ワーク・ライフ・バランスを意識した時差出勤の実施

【具体的な取組】

- ① 学校・家庭・地域が連携した教育の充実（コミュニティスクールとしての具体的な取組）
- ② 11年間の連続性を意識した「キャリア教育」「子ども主体の教育活動」の充実
- ③ 「自らつかみ取る学び」を充実させるためのICT教育
- ④ 自分たちの健康を守る探究活動の充実

	児童生徒	保護者		教員	取組状況 及び 改善点	自己評価	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員 コメント
		義務教	幼稚園					
1 子どもは	健康を意識した生活を送っている。	3.2	2.9	/	2.7	3	3.0	○健康探究活動「参観日の学校保健委員会」から、子どもたちのプレゼンテーション能力の高さを感じた。生徒会の取組（昼休みだよ！全員集合！など）も良い。物怖じせず発言するなど、子どもたちは伸び伸びと育っていると思う。 ○子どもと大人において評価に差があるが、子どもたちは一生懸命やっていると思う。大人がもう少し目線を下げて評価することも必要ではないだろうか。
	自分の体力作りに取り組んでいる	3.2	2.9	/	2.8			
	夢や希望の実現に向けて努力している。	3.1	2.9	/	3.0			
	様々なことに自分から取り組んでいる。	3.0	3.0	3.5	3.1			
	様々なことに粘り強く取り組んでいる。	3.0	3.1	3.8	2.8			
2 学校は、子どもの主体性を大切にしたい支援を行っている。	3.6	3.2	3.9	3.3	○主体的に学ぶ（目的をもって学ぶ）力を伸ばす授業づくりを実践している。全ての教員が高いレベルで支援できるよう意識をそろえ、実践を重ねていく必要がある。 ○主権者教育として「なかよしミーティング」「生徒会活動」「隊の活動」など、主体的な活動を継続してきた。	3	4.0	○今後も、主体性をもって行動できる学校の雰囲気づくりを続けて欲しい。 ○主体的な諸活動が活発になりすぎて、子どもたちが忙しくなりすぎないように手立ても必要だと思う。
3 学校は、子どもの学習改善に繋がる支援を行っている。	3.6	3.1	/	3.0	○教科担任制を取り入れることで専門性の高い学習環境を提供できた。 ○校内研究においてICTの活用法（学習改善も含む）の検討を続けており、今後も研究も続けていきたい。 ○新たな取組「自主勉」の実施や自主勉ノート展示の成果と課題を整理し、次年度に繋げていきたい。	3	3.5	○教科担任制がありがたい。コロナ禍におけるリモート授業や自主勉ノートの展示もよい取組だと思う。 ○子どもの高い評価からも先生方がICT教育を含め新しい教育に向けて自己研鑽に励んでいることがうかがえる。
4 学校は、子どもや保護者との対話を大切にしたい支援を行っている。	3.6	3.0	3.8	3.1	○「トークタイム」や「哲学対話」を年間継続して実施し、対話活動の素地を養うことができた。 ○年間を通し、子ども達に対して計画的かつ十分な時間を確保して教育相談を実施できた。	3	3.5	○保護者の自己評価が低いのは、積極的に関わっていないという親の自己反省もあるのではないかと。 ○学校での様子などの質問や疑問に学校側は丁寧に答えてくれている。
5 学校は、ねらいを大切にしたい教育活動を行っている。	3.6	3.1	3.9	3.4	○「問い（ねらい）」を中心とした授業の流れの在り方について、研究授業を実施し、教員間で協議を深めてきた。 ○校内における様々な取組（行事も含む）におけるねらいについて教員間での対話を大切に、共通理解を行った上で教育活動を実施してきた。	3	4.0	○児童生徒自身がねらいを意識して学校生活を送っていることが学校運営協議会での説明や子どもたちの姿からもうかがえる。
6 学校は、必要な学校の情報を定期的に伝えている。	/	3.2	4.0	3.2	○学校便りやHPにて情報を定期的に発信できた。全学年の学年通信を玄関に掲示して、情報発信を行った。 ○学校参観日の他、11月のオープンスクールでは文書や防災無線で広報し、地域に学校公開を行えた。 ○「地域に発信する掲示（年間3回）」で全学年の園児児童生徒の作品を町役場に掲示することができた。	3	3.0	○今までどおり丁寧に情報発信をお願いしたいが、必要以上のプリント等を出す必要はないと思う。 ○新たな情報発信の方法について、今後検討していけるとよいのではないだろうか。

【 総 評 】

○今年度もコロナ禍において様々な取組を実施することができた。生徒会活動をはじめとする主権者教育が子どもの主体性として表れてきていること、教員が工夫改善を図りながら学習改善につながる学習指導に取り組んでいる姿が見えること、「対話」を大切にしたい教育の方向性が子どもたちの姿により影響を与えていることなど、学校の取組が成果として表れてきている。来年度もさらに学校のよさを伸ばし、課題については解決に向けて取り組んでいけるよう努めていきたい。
○今後も地域とともにある学校を目指して、学校運営協議会や保護者からの意見を生かしながら、共に子どもたちを育てていく雰囲気を大切にしていきたい。

